

3 . 2 7 緊急アピール

去る3月14日の記者会見で都知事は再びフライングを犯しました。「一刻も早く完成するために大深度工法を活用する」とはどういう意味ですか。私たちP I 外環沿線協議会は前回から必要性の議論を始めたばかりで、数多い疑問に対し行政側の回答を待っている段階です。しかも協議員に示された図面と当日夜のNHKニュースで流されたように知事が記者会見で示した図面とはくい違っています。つまり、行政側は今や必要不可欠とされている「説明責任」さえ果たしていません。

P I 外環沿線協議会も行政側が必要と判断し設置したものです。それなのに貴方が「先に結論ありき」の言動を取り、着工を急ぐのは国・都がP I 外環沿線協議会のみならず国民に対し、必要性を証明することができないのではないか、という疑念を抱かせます。

私たちは知事と国交相が1月10日に発言した内容について1月21日の協議会の場で抗議文を出しました。しかし、それもどうやらお読みになっていないようです。真の政治家なら部下のレポートを鵜呑みにせず、正確に実情を把握して行動してください。

私たちも飾り物・隠れ蓑に使われるP I 外環沿線協議会で貴重な時間を浪費したくありません。

また3月8日から10日にかけて外環ルートに関係する約17,000戸に投函された「外環道路沿線地域アンケート調査結果のご報告」では、たかだか3割弱(26.9%)の回収率しか得られなかったのに、「56%もの外環整備賛意者がいるのだから、沿線の方も意識してくださいよ」と一定方向に誘導するような説明をしています。しかも3月4日の第15回P I 外環沿線協議会では「外環ジャーナル」の発行については説明したのに、「アンケート結果の報告」については触れませんでした。これは欺瞞的行為ではありませんか。

国と都はこの重大性を再認識し、このような愚をこれ以上繰り返すことがないように要望します。

以上

平成 15 年 3 月 2 7 日

P I 外環沿線協議会

協議員
